



どっこいしょ

Dokkoisyo

2016.12.22 (木) 第20号



子どもたちは“鏡”

……指揮者 佐渡 裕さんの言葉より……



12月9日(金)に1年生が鑑賞した「わくわくオーケストラ」の会場、兵庫県立芸術文化センターの芸術監督を務めておられる指揮者の佐渡裕さん。「大人になったらベルリン・フィルの指揮者になりたい。」と小学校の卒業文集に自分の夢を書かれたそうです。現在までにヨーロッパや日本で多数のオーケストラを指揮されており、小・中・高校生向けの「スーパーキッズ・オーケストラ」では子どもたちと一緒に音楽を作っておられます。

そんな佐渡さんの言葉を少し紹介します。

「……休憩時間に坂本先生のオルガン伴奏でよく合唱しました。その時に先生がわざと違う調子で伴奏して、私が正しいメロディーで歌えるか試すんです。私にとってはそんなことは苦ではなかった。……そうしたら先生が京都市少年合唱団への入団を勧めてくださった。

小学校は子どもたちが家族以外の評価を受ける最初の場所です。坂本先生は私の音楽に関して、親やピアノの先生以外で最初に気づかれ、的確に評価をし、私を後押ししてくださった。自分の才能を先生が見つけ出してくれたことはとても嬉しかったですね。」

「最近、スーパーキッズ・オーケストラで子どもたちと一緒に音楽を作っていますが**子どもたちはまさに“鏡”なんです。私が曇っていたら子どもたちの奏でる音も曇る。子どもの姿には、実は自分の姿が映し出されるんです。**

これは親子関係でも先生と生徒の間でも同じで、**大人と子どもの間には互いを映し出す鏡がある。**夢を持たない大人が子どもの前に立っても、子どもたちは決して夢は持たないと思います。だから、夢のある良い先生に出会うことは、子どもたちにとって本当に素晴らしい経験です。オーケストラも良い指揮者に出会えた時は、素晴らしい音色を奏でることができるのです。」(公立学校共済フォーラム12より)



「……指揮者は自分にとって“天職”だと言われる佐渡さん。天職は自分がやりたいことで自分自身が生きられ、喜んでくれる人がいることだと思うんです。」という言葉を皆さんはどのように受け止め、自分の将来の参考にしていくのでしょうか。

人との出会い、そこからどのような道に進んでいくのか、自分自身をしっかりと呼ぶことが大切ですね。

今年の冬休みは例年に比べずいぶん長く、18日間もあります。年の「瀬」から年の「始」にかけて、ゆっくりとするところ、ビシッとけじめをつけるところがあると思います。寒さ厳しい折ですが、ご家庭では心も身体もぽかぽかに温かくしてよい冬休みをお迎えください。1月10日(火)の始業式には、元気な姿と歓声を学校に届けてくれることを願っています。

鏡

金(きんぞく)と音を表す竟(キョウ:姿かたちの意)とからなり、顔や姿をうつし見る金属製の器具、かがみの意味を表す。

吹奏楽部

あかし市民
広場で演奏!

★「イブは
プラスの響きで!」

12月24日(土)
13:30~

★「明石歳末
チャリティー(仮称)」

12月31日(土)
13:00~



明石市本の帯感動大賞 ファイブミニッツ賞

おめでとう!

3年 田中 良佳

「5分間に意外な結末」
シリーズより

第36回全国人権 作文コンテスト 兵庫県大会 奨励賞

おめでとう!

2年 外山 汀

▼おばあさんの手術をきっかけにして、「困っている人の気持ち」と今の自分ができることを学びました。

▼詳細は学校HPから2年生学年だより「絆」No.24をご覧ください。